水稲情報

（第2号）

令和５年４月２６日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

「あおば米」の品質向上のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

・苗が軟弱徒長とならないよう、育苗ハウスの換気を徹底する。
・田植機は70株／坪にセットし、適正な植え付けや水管理で初期分げつの発生を促す。
・基肥は品種や土壌条件に合わせて適正量を施用し、適正生育へ誘導する。
・除草剤は使用前に必ずラベルを確認し、遅れずに散布する。

1　硬化期の育苗管理

～換気を徹底し健苗育成～

○**ハウス内温度が25℃以下となるよう換気を徹底**する。
（特に、晴天日は早朝から換気する）
○かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水する。（かん水過多は根張りが悪くなるので注意する）
○**田植え7～10日前から**は、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
○強風時はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意する。

晴天日のハウス内温度は
40℃を超える高温になる！

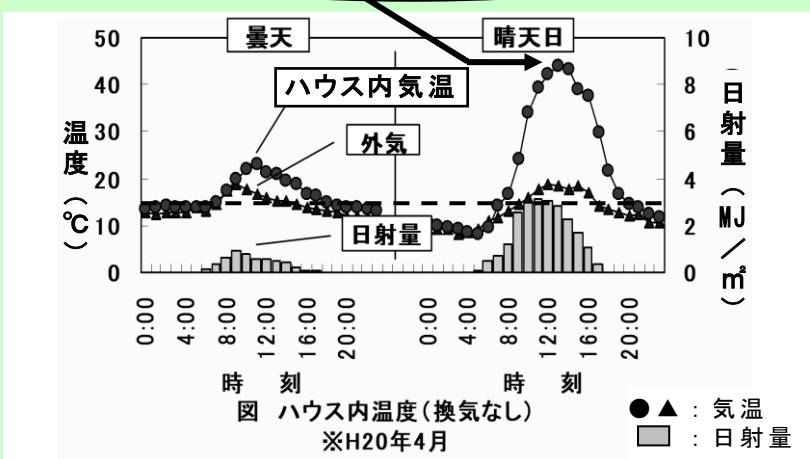

図　ハウス内温度（換気なし）
※H20年4月

2　本田準備と病害虫防除

～代かきは田植えの３～５日前に行う～

○整地の良否は稲の生育や雑草の発生（除草剤の効き方）に大きく影響するため、耕起や代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
○**代かきは田植えの3～5日前**に実施する。また、代かきは少なめの水で行い、稲わらなどをすき込み、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

JA からの購入苗は苗箱施薬済みのため、重ねて施用しないで下さい!!

＜苗箱施薬＞　～除草剤を苗箱に散布しないよう注意～

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	散布量	散布時期
全品種	いもち病、紋枯病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、イナゴ類など	ヨーバルプライム EV箱粒剤	50g/箱（1kgで苗箱20枚分）	は種時（覆土前）～移植当日

☆播種前に散布機の目盛を調整し、適量が散布されているか確認する。
☆**育苗後の育苗ハウスで野菜を栽培する場合、薬剤散布はハウスの外に搬出してから行う。**
（播種時や育苗ハウス内で散布した場合、その後ハウス内で栽培する野菜に農薬が残留するおそれがあります。）

3　カメムシ対策（第2回）

～カメムシの餌となる雑草を減らす～

○カメムシが好むイネ科雑草を減らすため、除草剤の散布や畦畔等の草刈りを行う。
○除草剤を使用する場合はバスタ液剤やザクサ液剤などの茎葉処理除草剤を**田植前までに散布**する。
※周辺の農用地や作物に飛散しないよう、風のない時に散布方向・範囲に注意して散布する。
○除草剤散布をしない場合は、イネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行う。

STOP! 農業機械の盗難被害!!　営農に不可欠な機械を守りましょう!!

4　田植えと水管理　～適正な「植付け」「施肥量」「水管理」で初期分げつを確保～

○**栽植密度は70株／坪**とし、**植付本数は3～4本／株**、**植付深さは3cm**に調整する。
○**基肥は、品種や土壌条件などに応じた施肥基準量**※1**を遵守する**とともに、田植時に施肥量の確認を必ず行う。なお、昨年**てんたかくが倒伏した圃場は必ず減肥**する。
○**活着までは5～6cm程度のやや深水**にして植え傷みを防ぐ。 **活着後は3cm程度の浅水**にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。

※1 JAあおば予約注文書兼肥料カタログの施肥設計例等を参考にして下さい

あらかじめ田植機の設定を確認しましょう。
⇒ 株数は70株/坪にセット、掻き取り量は標準よりも「少なく」、植付深さは標準よりも「浅く」設定する。
田植え作業開始時には、**目標どおりの植付となっているか確認**し、田植え作業中は苗や肥料の使用量を確認しましょう。

【水管理のイメージ】

田植え → 植え傷みの防止 〔2～3日程度〕 → 活着 → 水温上昇～分げつ発生を促進 → 中干し

やや深水（水深５～６cm）

浅水管理　（水深３cm）

溝堀りは田植後３週間から
中干しは田植後４週間までに開始

5　除草剤散布　～使用基準を遵守し、適期にムラなく均一に散布する～

○あらかじめ畦畔や排水口からの漏水の有無を確認し、漏水箇所を手直しする。
○**散布後5日間は湛水状態**を保ち、田面を露出させない。
○河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間は「止水管理」にして落水しない**。
○雑草が多い圃場は、「体系処理」で除草効果をさらに高める。

【除草体系】

田植え　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　～　15　～　20　～　30　～　田植後日数

初期剤＋中期剤
- ピラクロン１キロ粒剤（田植直後～ノビエ1．5葉期、但し田植後 30 日まで）

田植同時兼用剤
- エンペラー１キロ粒剤（田植同時～田植後５日）

田植同時兼用剤は雑草の状況をみて中期剤や後期剤を散布する

中期剤
- レブラス１キロ粒剤（ジャンボ）（田植後14日～ノビエ4葉期、収穫60日前まで）
- ワイドショット１キロ粒剤（田植後15日～ノビエ4葉期、収穫45日前まで）
- ブイゴールＳＭ１キロ粒剤※2（田植後15日～ノビエ3.5葉期、収穫60日前まで）

※2：15℃以下の低温または30℃以上の高温時には使用を避ける

田植同時処理の場合の注意点
＊田面に水がやや残った状態で田植えを行う
＊植え穴の戻りが悪い圃場、水持ちの悪い圃場では使用しない
＊軟弱徒長苗での使用を避ける
＊極端な浅植えにならないよう注意する

初中期一発処理剤
- キクトモ１キロ粒剤
- ゼータタイガー１キロ粒剤（ジャンボ）
- ボデーガードプロジャンボ
- エンペラー豆つぶ 250

（田植後５～12日）

後期剤
- ヒエ・広葉雑草が残った場合：トドメバスMF液剤
- 広葉雑草が残った場合：バサグラン粒剤
- クサネム・イボクサ対策：ノミニー液剤（田植後 30 日～）
- ヒエが残った場合：トドメ MF（１キロ粒剤・乳剤）
- ヒエクリーン豆つぶ 250

作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」春の農作業安全運動実施中！（3/1～5/31）